

妙高市 新図書館等複合施設

MYOKO LIBRARY

2022.03.

〔基本設計説明書〕

- 概要版 -

AXS SATOW INC.
佐藤総合計画

01.はじめに

基本構想との整合（上位計画）

— 図書館整備基本構想（R1年8月）・新図書館等複合施設整備計画（R3年3月）を基本とした設計の考え方 —

図書館等複合施設の設計にあたり、上位計画（図書館整備基本構想、新図書館等複合施設整備計画）と整合を図りながら設計を進めます。

図書館整備基本構想

『人と本、人と人をつなぐ情報拠点
×
居心地の良いやすらぎ空間』

- ① 情報の集積基地として、市民の役に立つ「**知の拠点**」
- ② 市民の主体的な学習活動を支え、豊かな人間性を育む「**生涯学習拠点**」
- ③ あらゆる世代の市民が集い、人がつながり、地域に活力をもたらす「**交流拠点**」

新図書館等複合施設整備計画

中心市街地の活性化と新図書館を核とした複合施設整備の基本的な考え方

- ① 都市機能の集積と暮らしやすさの向上
都市機能の集約と再編（機能融合）によって、市民サービスの質と日々の暮らしやすさの向上により関係人口の増加に波及する効果が期待できます。
- ② 中心拠点の活力向上
新図書館を核とした複合施設は、図書館の持つ高い集客力やリピーター特性から、交流の促進とにぎわい創出に大きく寄与します。

「図書館整備基本構想」における3つの方針に対する役割

- 基本方針1. 「知の拠点」
⇒資料を「**収集・保存**」する場所
- 基本方針2. 「生涯学習拠点」
⇒資料を「**活用**」した様々な学びや発信、活動の場所
- 基本方針3. 「交流拠点」
⇒「**交流**」を促進する場所

設計のコンセプト

“人” と “情報（本）” と “居場所” をつなぐ

ひと（市民、団体、職員）、情報（本、PC、郷土資料など）、居場所（学習室、生涯学習スペースなど）が密接に関わる施設とすることで、妙高市が持つ情報や資源（知の拠点）によって学習活動を支える（生涯学習拠点）、さらには市民が集う施設（交流拠点）とします。

図書館、生涯学習機能、子育て支援、交流機能などの都市機能を「融合」し、施設の賑わいを創出することで、中心市街地の活力向上に寄与する施設づくりを行います。



01.はじめに

計画概要



○計画概要

名称：妙高市 新図書館等複合施設建設工事 設計業務

計画地：妙高市朝日町1丁目他地内

敷地面積：4,290 m²

建築面積：1,050 m²

延床面積：2,837 m²

建蔽率：24.5% (80%)

容積率：67.0% (400%)

用途：複合施設 (図書館・子育て支援センター)

構造：鉄筋コンクリート造 + 一部鉄骨造

規模：地上4階建 (4階：設備機器スペース)

駐車台数：59台

用途地域：都市計画区域内 商業地域

防火指定：準防火地域

02. 配置計画 基本的な考え方

配置計画について、敷地の特異性（狭隘な敷地、積雪への配慮、東西通り抜けなど）を考慮して検討いたします。
①敷地の分析や設計条件から課題を抽出し、②課題に対するポイントを整理し、配置の基本的な考え方といたします。

課題の整理

1 3方向からのアプローチ

建物へのアプローチは、①北側「朝日町商店街」、②西側「北国街道」、③南側「市役所」の「3つの方向」からの人の流れとなり、それぞれの方向から来館者を迎え入れる工夫が必要。

2 にぎわいひろばの配置

整備計画 p61 記載の「整備の方向性：イベントを通じた連携」や p63 記載の「雨天時や冬季にも活用可能なひろば」など、屋外・半屋外ひろばを配置し、賑わい創出に寄与する。



3 積雪への配慮

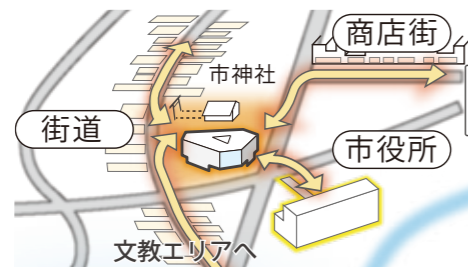
多雪地域に配慮し、敷地内の堆雪スペースの確保や、万が一の雪下ろしに備えた、建物周辺スペースの確保など、積雪に対する多角的な配慮が必要。

4 狭隘な敷地と車利用

車での来館者が多いことが想定される一方、狭隘な敷地内の車の往来に対して、歩行者やひろば活用など、徹底して安全性に配慮が必要。

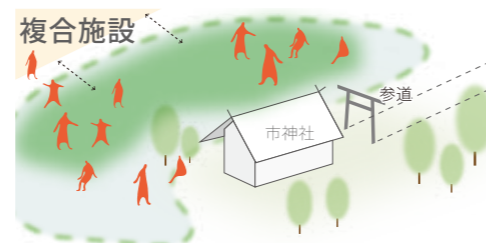
ポイント

1 3方向への正面性



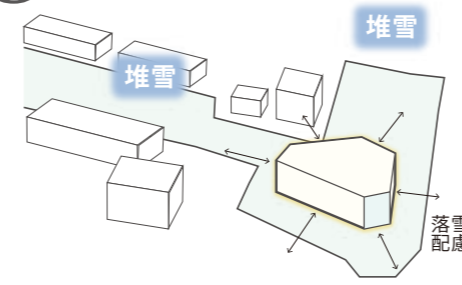
商店街、北国街道、市役所の「3つの方向」から、迎え入れる建物形状とします。また、3方向に賑わいを創出します。

2 建物の内外がつながる「一体ひろば」



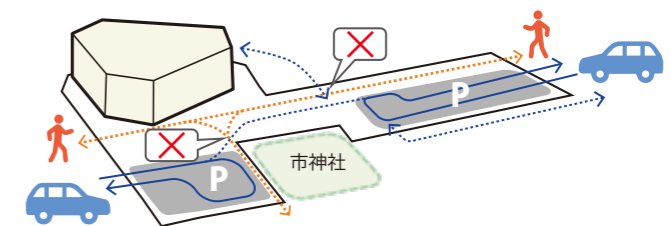
にぎわいひろばは施設の内外を一体的に利用可能な位置や建物の設えとすることで、周辺を活かすにぎわいづくりの核となります。

3 コンパクトな中央配置



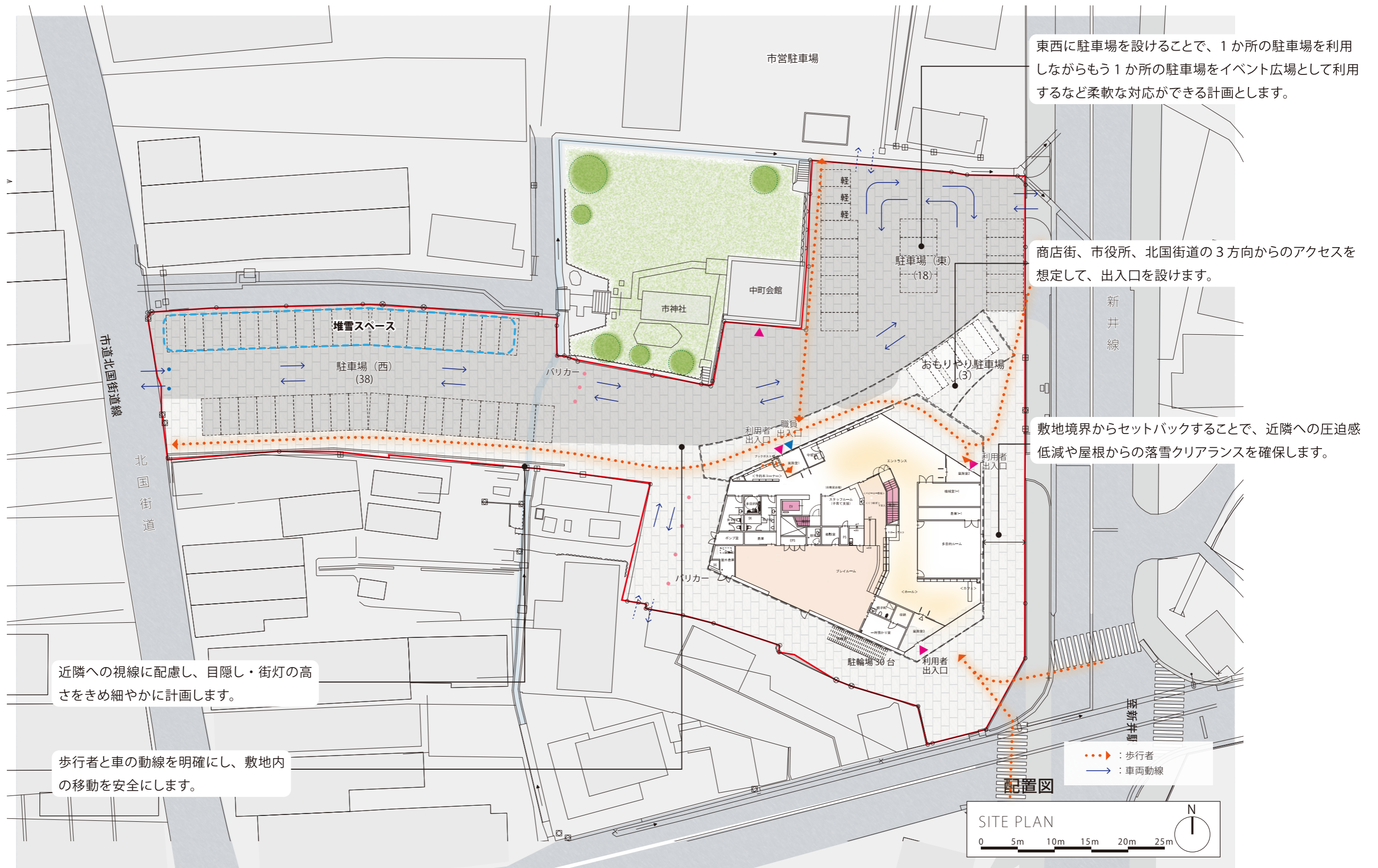
建物は極力コンパクトな外形とし、敷地内に有効に「堆雪スペース」や「落雪が敷地外に落ちない配慮」とします。

4 歩道と車道の明確化



歩行者と車の動線を明確にすることで、敷地内の移動（歩行者・車）の安全性に配慮します。

02. 配置計画 動線計画



東西に駐車場を設けることで、1か所の駐車場を利用しながらもう1か所の駐車場をイベント広場として利用するなど柔軟な対応ができる計画とします。

商店街、市役所、北国街道の3方向からのアクセスを想定して、出入口を設けます。

敷地境界からセットバックすることで、近隣への圧迫感低減や屋根からの落雪クリアランスを確保します。

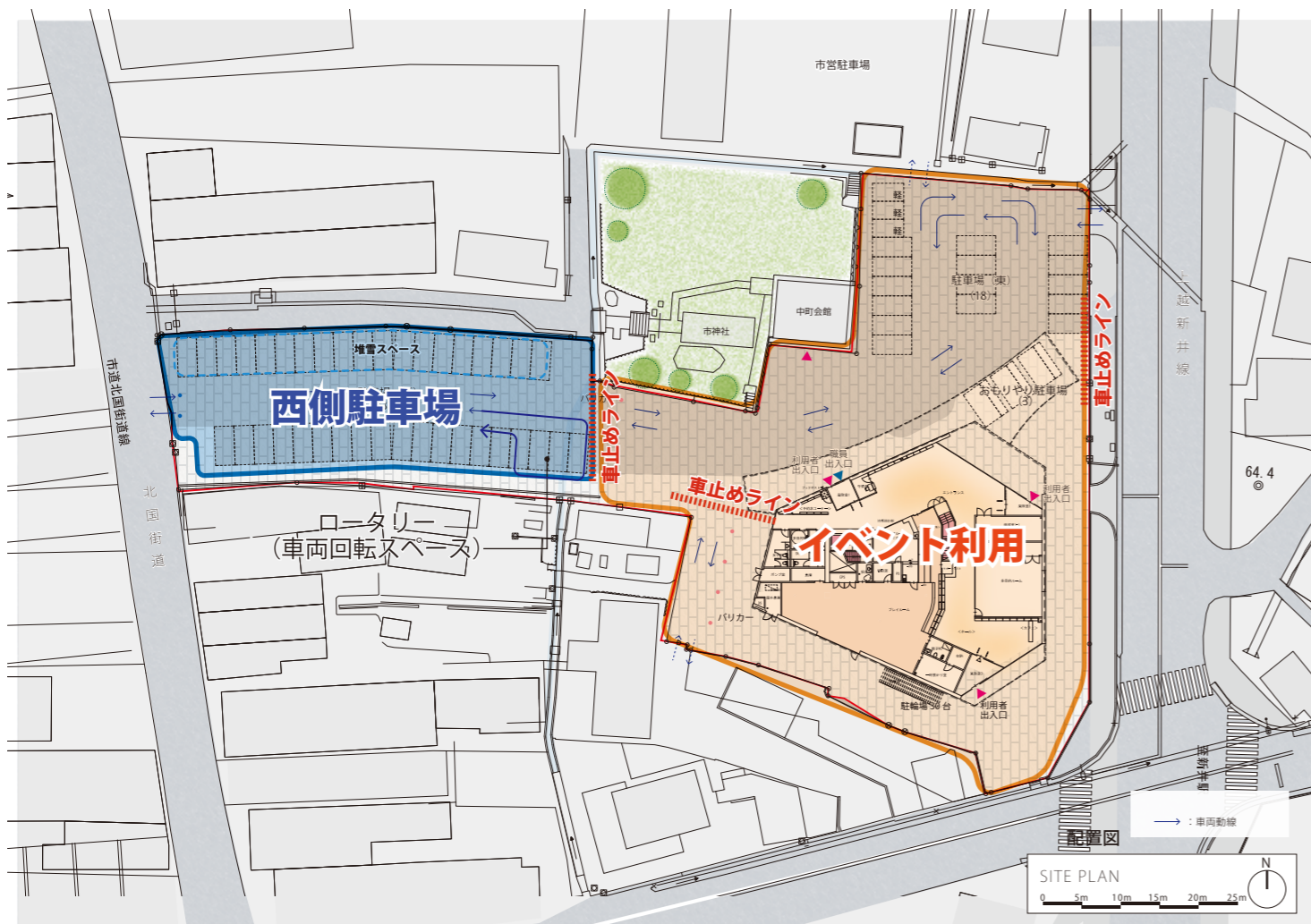
近隣への視線に配慮し、目隠し・街灯の高さをきめ細やかに計画します。

歩行者と車の動線を明確にし、敷地内の移動を安全にします。

02. 配置計画 敷地の利活用

「近隣住民の動線確保」と「イベントなどにぎわいの創出」を両立する配置計画とします。

東側と西側に配置した駐車場はそれぞれが単独でも使えるような工夫としたことで、多様なイベントを許容する（柔軟な使い勝手が可能な）計画となります。



<東側エリアのイベント活用>

- 敷地中央に「止めライン」を設置し、西側のみを駐車場とした場合、東側は建物内外で一体的にイベントなどが可能となる。
- 西側駐車場はロータリー（車両回転スペース）を設け、使いやすい駐車場としている。



<西側エリアのイベント活用>

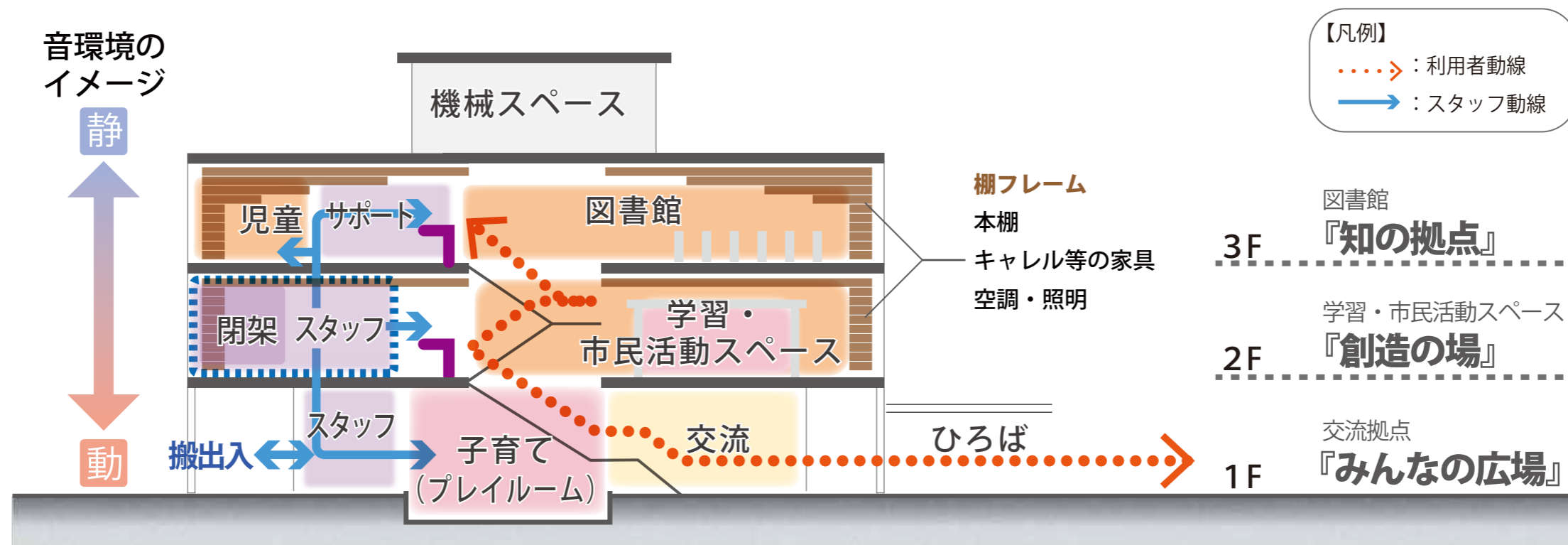
- 東側のみを駐車場とした場合、東西通り抜け、西側エリアと建物内外も含めて、一体的にイベントなどが可能となる。
- 東側駐車場は一方通行のサークルになっており、使いやすい駐車場計画としている。

03. 平面計画 基本的な考え方

『“人”と“情報（本）”と“居場所”をつなぐ』

階ごとにプログラムを分けた明快な建物構成

1. 1階は中心市街地の活力向上として、1階は内外が連続する“ひろば”のような空間とすることで、様々な活動を生み、その“にぎわい”をまちにひろげる場（みんなの広場=交流拠点）とします。
2. 2階は「学習・市民活動スペース」をメインに配置することで、1階と活動を連続させ、3階の知（図書・資料）との近接化を図ります。市民の主体的な活動や学習を促し、市民の創造的な場所（創造の場）とします。
3. 3階は妙高の知（図書・資料）を集めたフロアとし、情報を収集・保存・発信する、まさに「知の拠点」とします。
4. 音のゾーニングとして1階の賑わい空間から上階の図書館空間へと、ゆるやかに連続しながらも音へ配慮した計画とします。



03. 平面計画 フロア構成（1階）

出入口付近に「思いやり駐車場」を配置（バリアフリー）

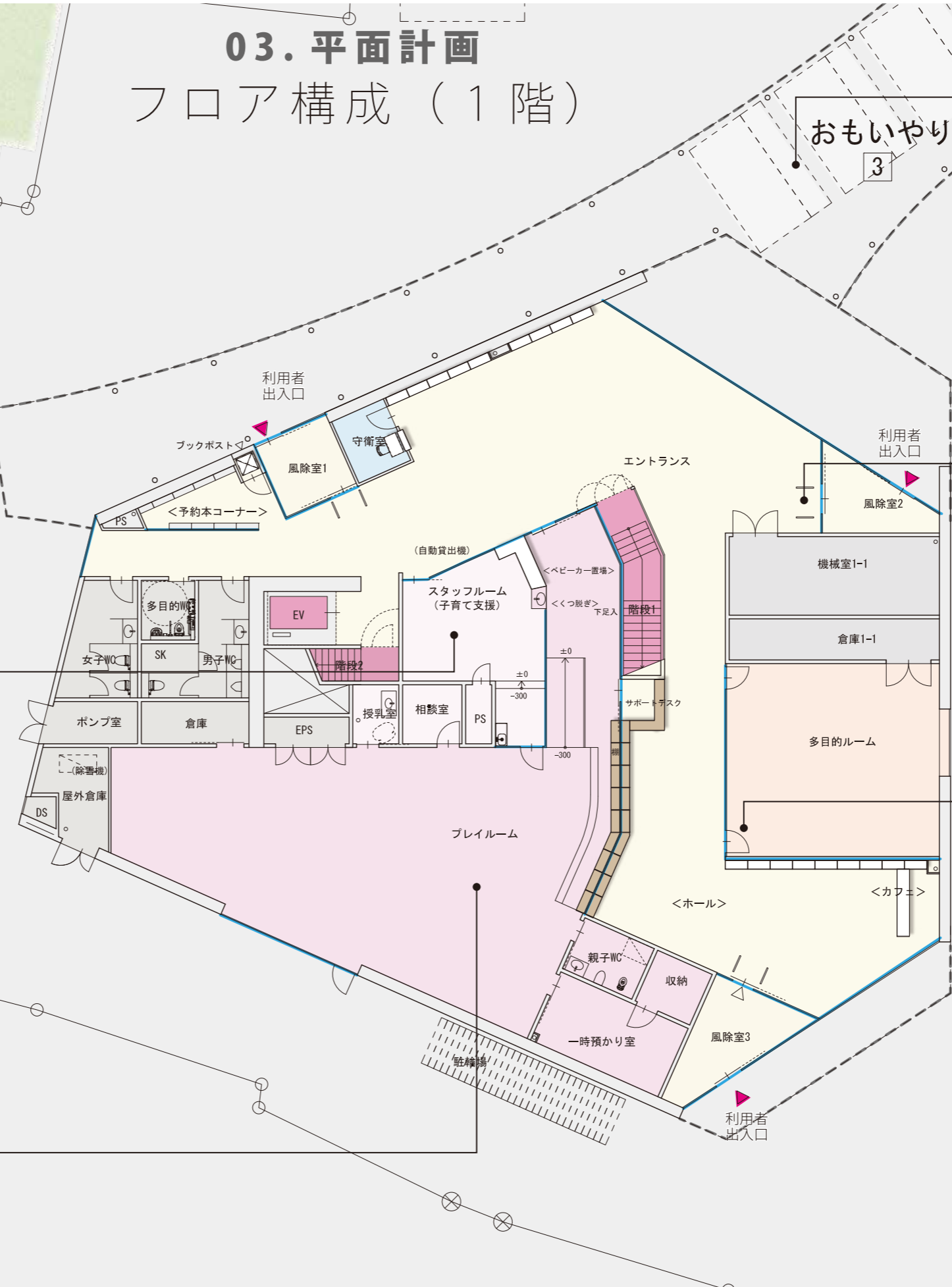
おもいやり
3

商店街・市役所・北国街道、北・西駐車場からのアクセスを考慮して出入口を設置

多目的ルームは、大人数の集中的な利用も想定されるため、1階のアクセスしやすい位置に配置

フロア全体を見渡せる
スタッフルーム

乳幼児も含めた親子で利用することから、安全面（ベビーカー利用など）を考慮して1階に配置



- 子育て支援機能
- 子育て支援（事務）機能
- メイン動線
- 生涯学習機能・市民交流機能
- 共用・図書館機能
- 事務機能
- 閉架書庫
- トイレ・その他

1F 『みんなの広場』

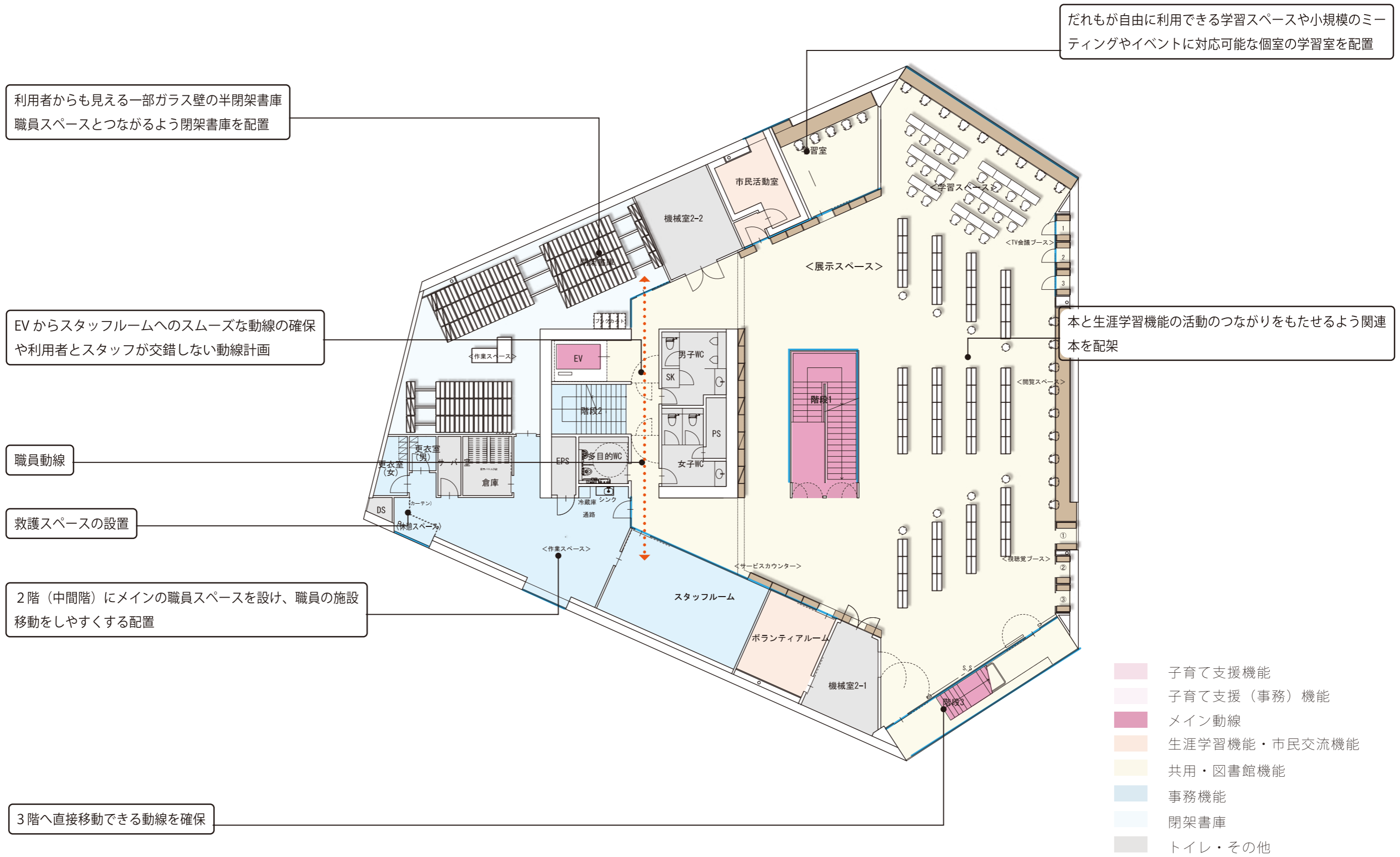
1階平面図 ※今後の検討により、変更する可能性があります。

PLAN

0 5m 10m

N

03. 平面計画 フロア構成（2階）



2F

『創造の広場』

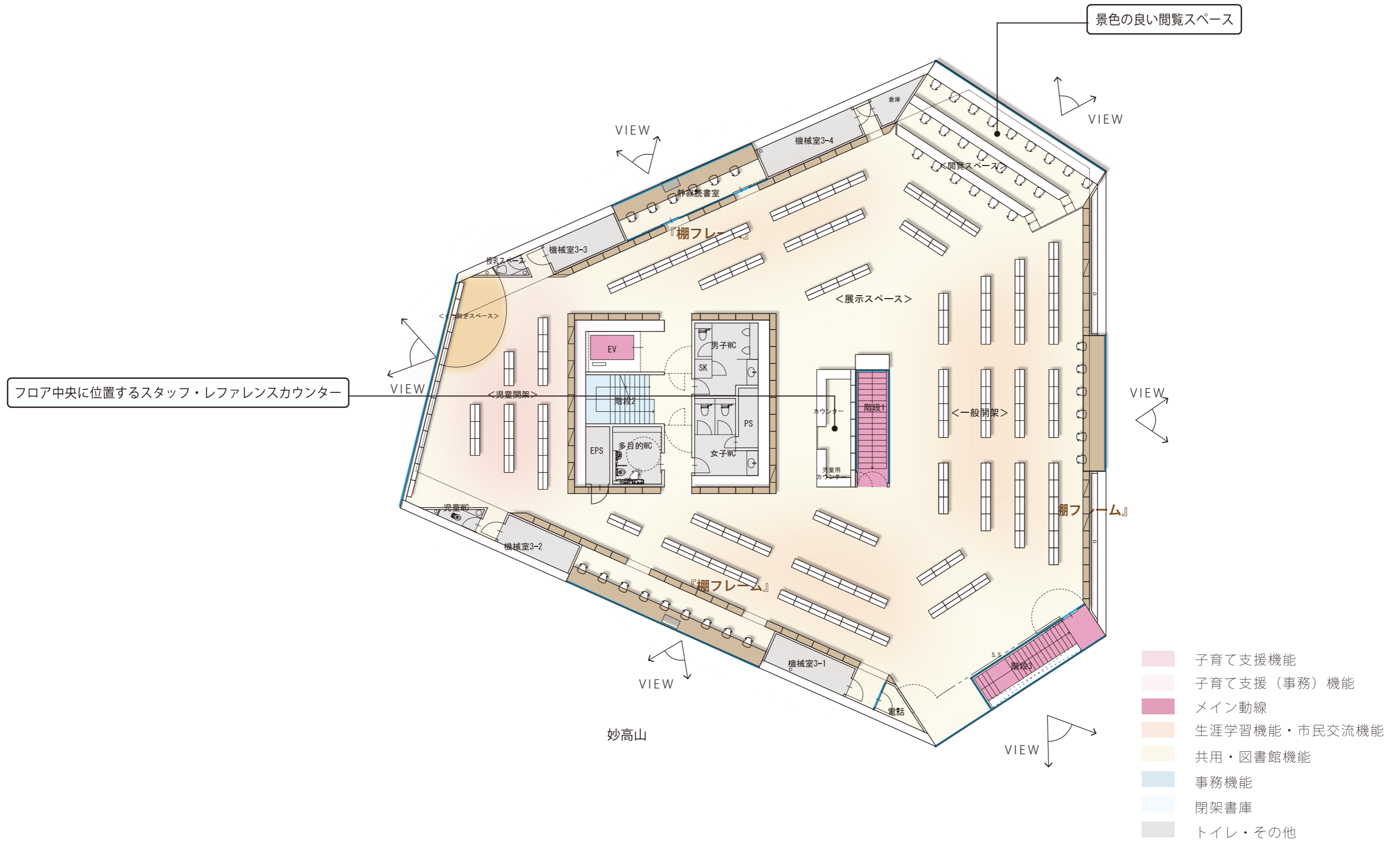
2階平面図 ※今後の検討により、変更する可能性があります。

PLAN

0 5m 10m

N

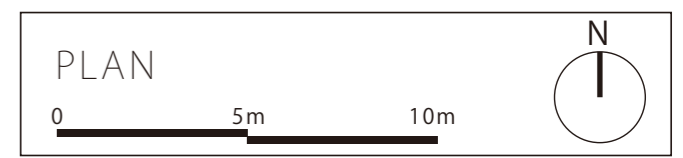
03. 平面計画 フロア構成（3階）



3F

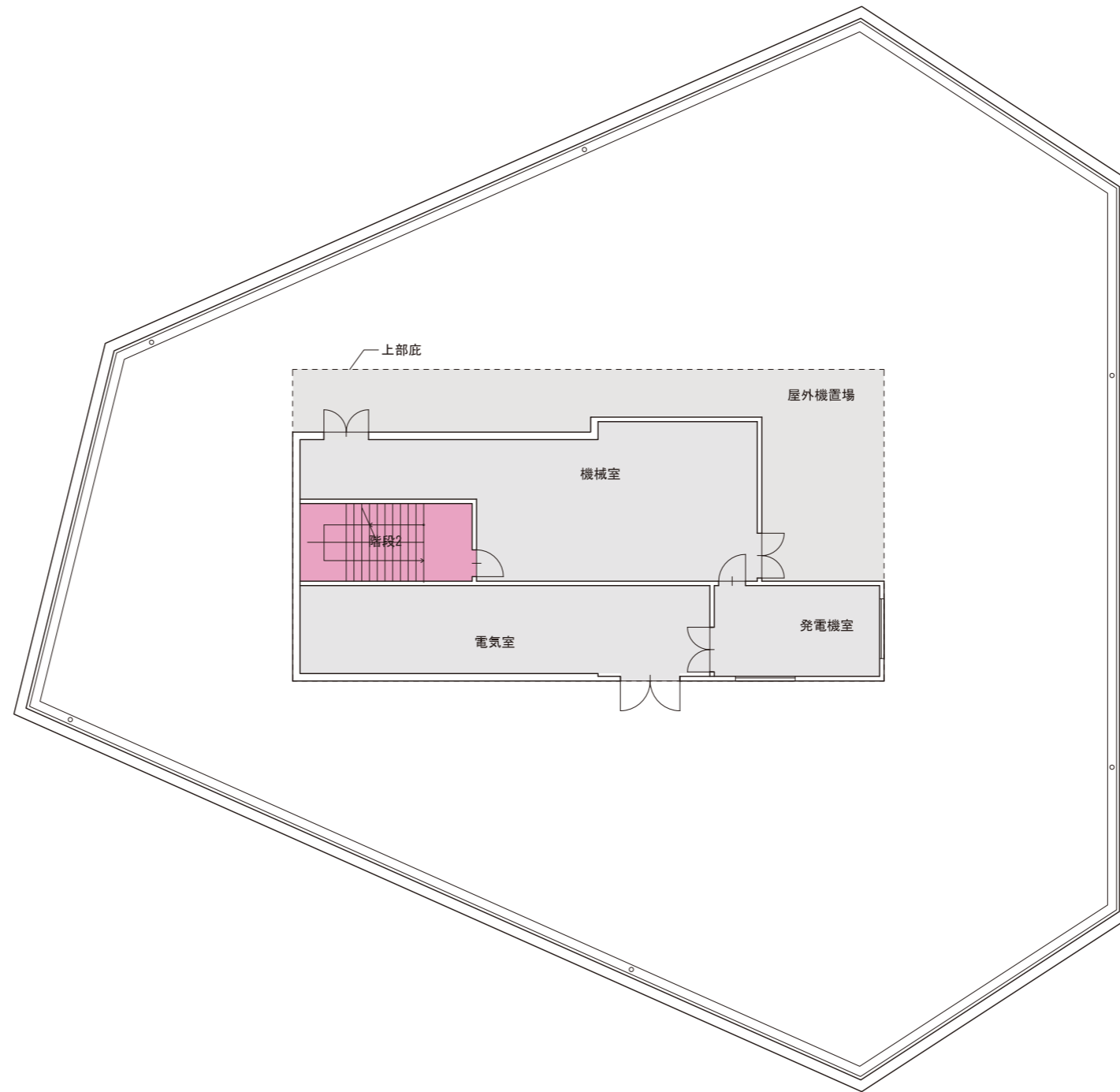
『知の拠点』

3階平面図 ※今後の検討により、変更する可能性があります。



03. 平面計画

フロア構成（PH階）



- 子育て支援機能
- 子育て支援（事務）機能
- メイン動線
- 生涯学習機能・市民交流機能
- 共用・図書館機能
- 事務機能
- 閉架書庫
- トイレ・その他

PHF

PH階平面図 ※今後の検討により、変更する可能性があります。

